

令和 5 年 5 月 15 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00785

研究課題名(和文) 経済開発と資源の重層的ガバナンスに関する人類学的研究 - エチオピアの事例から

研究課題名(英文) Anthropological Studies on Economic Development and Multi-level Governance of Resources: Case Studies in Ethiopia

研究代表者

宮脇 幸生 (Miyawaki, Yukio)

大阪公立大学・大学院現代システム科学研究科 ・教授

研究者番号：60174223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：エチオピアにおける民族連邦制という政治システムと、開発による高度経済成長という経済面の相互依存性と矛盾を、北部ティグライ州から、アムハラ州、オロミア州、南部諸民族州にかけての政治と開発の現場を検証することで、具体的に明らかにした。政権の中核にあるティグライ民族解放戦線に主導され、政治と経済が密接に絡まり合っただけで成長をもたらしたティグライ州、政権の中核から滑り落ち不満の溜まるアムハラ州、伝統文化を活性化させ、独立志向を強めるオロミア州、大規模開発が行われ現地住民が生活の場を奪われたり、そこで新たな生業を開始する南部諸民族州と、政治からの距離によって、開発の様相も異なっていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

エチオピアは2000年代半ばから2020年頃まで、年10%前後の高度経済成長をなしとげた。これは世界的に見てもトップクラスの成長率である。他方で他のアフリカ諸国とは異なり、エチオピアにはこれといった輸出向けの地下資源がない。いかなるやり方でこのような経済成長が可能になり、それはエチオピアの民族連邦制という独自の政治システムとどのような関係があるのかを明らかにすることは、開発途上国の経済開発を考える際にも新たな発見をもたらすものであり、また政情が不安定な東アフリカの政治状況を考察する際も、重要な知見をもたらす。そのような意味で、この研究は大きな学術的・社会的意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：This project explored the relationship between ethno-federalism and economic development in Ethiopia by investigating different regions such as Tigray, Amhara, Oromia and SNNPR. Politics of ethno-federalism and economics of development are interdependent but contradictory, and different results have been observed in each region. In Tigray region, politics and economics have been intermingled by TPLF which had led the politics of Ethiopia government till 2019. In Amhara region, dissatisfaction of people has been accumulated due to the dismantle from the position of ruling ethnic group after 1991. In Oromia region, people intend toward independence by activating "traditional political system." In SNNPR region, some groups seceded from the region, and made new regions. In peripheral area, some groups have been enforced to be displaced from their territory due to the establishment of plantations, and other groups have adapted to a new environment by creating allocation system of resources.

研究分野：文化人類学

キーワード：エチオピア 開発 資源 重層的ガバナンス 民族連邦制

1. 研究開始当初の背景

第三世界における開発の人類学的研究は、開発主体である国家や企業・国際機関と、開発の対象となる草の根の地域住民の対立や交渉を描いてきた。だが現代において、開発に関わる主体は単一ではなく、また地域のアクターも一枚岩ではない。開発には多様なアクターが関与し、水平・垂直的な対立・依存関係のもとで新たな資源管理のシステムを形成している。

エチオピアでは1991年以降、ティグライ人中心のエチオピア人民革命民主戦線（EPRDF）政権が、政治では民族連邦制を、経済では開発主義政策をとってきた。民族連邦制はそれまでのアムハラ人中心の中央集権国家を解体し、各民族の自治独立権を認めることで、新生エチオピアの政治体制とEPRDFへの政権移行を正当化した。開発主義は、経済成長の果実を各州に分配することで、分離主義に向かう各民族をつなぎ留め、連邦の解体を防いできた。だがこの政治・経済体制は、政治的民族意識の高まりと累積する貿易赤字のため、困難に直面している。

2000年代になるとこの民族連邦制によって「民族」が政治経済的な資源分配の単位となり、草の根レベルで政治化した民族意識が広く浸透した。2016年には、ティグライ人が国家の資産を独占しているという疑念が広まると、最大民族オロモ人やアムハラ人による全国規模の暴動が起き、政府は非常事態宣言に追い込まれることになった。その一方で地下資源の乏しいエチオピアは、海外からの援助を国内のインフラ建設に投資することで経済成長を促進してきたが、それは毎年多額の貿易赤字を産み出し、持続的な経済成長を不確かなものとしている。

2. 研究の目的

エチオピア政府はこれらの困難に対処するために、経済構造を輸出主導に転換することを目指し、国内外の資本を導入することで資源開発を加速している。開発に関わるのは、その地域の在来諸集団をはじめとして、エチオピア中央政府 / 州政府・多国籍企業 / 国内企業・国際NGO / 国内NGOなど、多様な諸アクターである。地域で自給的に利用されていた資源が、市場経済に投入される資本・商品となることで、エチオピア各地においてローカル・リージョナル・ナショナル・グローバルという多様なレベルにあるアクターが関与する複雑で重層的な資源ガバナンスのシステムが形成されつつある。この重層的ガバナンスの構造と動態、地域的変異を明らかにするのが、本研究の狙いである。すなわち、国家の開発政策の流れの中で、国内各地域において何が「資源」として見出され、その開発・管理には、どのようなアクターがかかわっており、異なったレベルにある諸アクターが、資源ガバナンスにおいていかなる重層的システムを形成しつつあるのかを明らかにすることが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究が扱う重層的ガバナンスのシステムは、開発を主導する政府や企業と地域住民が同じ

地域	プロジェクト	関与するアクター	調査者
ティグライ州	プランテーション	企業 / 州政府 / 現地農民	眞城
アムハラ州	稲作栽培	企業 / 州政府 / 現地農民	児玉
アディスアベバ	保健医療サービス	連邦政府 / 保健普及員 / 市民	西
オロミア州	女子教育	NGO / 州政府 / 現地農民	利根川
オロミア州	商業牧畜他	NGO / 企業 / 州政府 / 牧畜民	田川
南部諸民族州	再定住政策	州政府 / 移住農民 / 現地農民	藤本
南部諸民族州	プランテーション	企業 / 州政府 / 移住者 / 農牧民	宮脇
南部諸民族州	プランテーション	NGO / 連邦政府 / 企業 / 農牧民	佐川

民族に属し、いち早くシステムを構築したティグライ州、人口稠密で土地よりも労働力の開発がめざされるアムハラ州とアディスアベバ特別区、そして開発の主導者と地域住民が全く異なる文化的背景をもつオロミア州や南部諸民族州では、異な

った展開を見せている。各調査者は、独自の社会的特徴をもつ各地域の資源開発の現場で現地調査をすることにより、それに関与する多様なアクター間で、どのような資源の重層的ガバナンスが形成されているのかを明らかにする。さらに日本における研究会で、それぞれの調査結果を持ち寄り、地域ごとのガバナンスの特徴と相違、エチオピアの開発政策との関連について検討を行う。

4．研究成果

2019年に始まったコロナの流行と、2020年に始まったエチオピアの内戦により、いくつかの地域では現地調査の中断を余儀なくされた。また政権党 EPRDF からの中核的政治組織である TPLF の脱退と、新首相アビィ・アハメドによる繁栄党の結成、さらに下野した TPLF とエチオピア政府間の対立と内戦の勃発は、当初の分析枠組みを再考させるものとなった。

このような事情のために、ティグライ州やアムハラ州など、現地調査を断念せざるを得なかった地域もいくつかあった。そのためこのプロジェクトの研究成果は、断続的に行われた現地調査に加え、文献をサーベイすることによって、1991年から2018年まで続いたEPRDF政権下のエチオピアの政治・経済システムを総括・分析し、かつそのあとを襲ったアビィ・アハメドによる現政権の今後を予想することとした。そして30年におよぶEPRDF政権下における各地域の政治・経済の在り方を、資源管理に焦点を当てつつ検討するものとした。具体的な研究成果は、『科学研究費基盤研究B 経済開発と資源の重層的ガバナンスに関する人類学的研究 - エチオピアの事例から - 報告書』という報告書の形で刊行した。なおこの報告書の執筆者は、本科研プロジェクトの研究代表者・分担者だけでなく、他のエチオピア研究者も連携研究者として参加している。本報告書の内容は下記のとおりである。

「第1部 民族連邦制と各社会領域」では、エチオピアという国家における政治体制としての民族連邦制、および経済政策としての開発主義の歴史と相互の関係について論じ、さらのその政治経済体制が機能するようすを、保健・教育・市民社会という観点から分析している。「第1章 序 エチオピアにおける「民族連邦制」と開発主義」(石原・眞城・宮脇)では、エチオピアの政治体制の変遷、EPRDF政権のとる民族連邦制の仕組みとその問題点、さらに民族連邦制と開発主義政策の間の相互依存性と矛盾について述べている。「第2章 エチオピア憲法における民族連邦制の検討」(児玉)では、エチオピア憲法における民族連邦制の位置づけについて分析している。「第3章 社会セクター 保健医療と教育」(西)では、EPRDF政権下における保健医療政策と職業教育の拡大、保健医療を通じた国家支配と国民にとってのその意味について分析している。第4章 エチオピアにおける市民社会スペース メディアおよび NGO セクターの状況から」(利根川)では、EPRDF政権下でのメディアの統制と、NGOの活動を規制する立法措置について論じている。

「第2部 民族連邦制と各州の経験」では、第1部で分析したEPRDF政権下の民族連邦制という政治体制と、開発主義という経済政策が、地方社会にどのような影響を与えているのかを分析している。ティグライ州はEPRDF政権の中枢を担ったTPLFの出身地域であり、TPLF主導の政治・経済改革がもっとも強力に推し進められた地域である。「第5章 EPRDF 政権下のティグライ州の経験」では、TPLFの歴史をたどった後、TPLFによる州行政と政府系NGO、ティグライ復興基金とティグライ資本について分析を行い、政権中枢にあったTPLFと「市民組織」の形態をとる政府系NGO、そしてTPLFと密接な関係をもつ民間企業の在り方を報告している。

オロミア州は、デルグ軍事政権期までは、北部のエリトリアやティグライにくらべて、政治

的なまとまりはそれほど強くなかった。だがEPRDF政権期になると、オロモ人アイデンティティの強化が急激に進み、ティグライ人中心のEPRDF政権に対する抵抗も、非常に強くなった地域である。「第6章 オロモ民族主義と民族連邦制 オロモ民族主義の過去・現在・未来」(石原)では、帝政期および軍事政権期におけるオロモの政治的な位置について述べたのち、EPRDF政権期の民族連邦制下におけるオロモ語の公用語化およびオロモ文化の復興と、排外主義的な民族ナショナリズムの高揚について論じている。「第7章 文化政策におけるガダ体系」(田川)では、オロモの一部である南部の牧畜民ボラナで維持されてきた伝統的な年齢階梯システムであるガダが、オロモの民族文化復興の流れの中で、いかにオロモ文化を象徴するものとして政治的に再興・利用されているのかを報告している。「第8章 国家への集合的トラウマとその反動 エチオピア南東部アルシにおける EPRDF 政権下で「見せしめにされた者たち」の語りと経験に焦点をあてて」(大場)では、オロモの一部であるアルシにおいて、エチオピア帝国からEPRDF政権に至る歴史の中で、国家に弾圧された人々の語りに見ることのできるトラウマ的体験に焦点を当てて分析を行っている。

南部諸民族州は、エチオピアの中でももっとも州の中の民族数が多く、州内部の分離主義的な動きが活発な地域である。またエチオピアの政治的中枢を担ってきた高地人とは文化も異なり、帝政期から現在に至るまで、エチオピア国内でも政治経済的に周辺化されてきた地域でもある。「第9章 新たな州の創設と自立に向けた動き 南西エチオピア諸民族州の事例」(吉田)では、南部諸民族州の歴史と、民族連邦制下においてそれがはらむ問題を、南部諸民族州からの南西エチオピア諸民族州の独立に焦点を当てて論じている。「第10章 周辺民族にとっての国家の諸相 西南部の農耕民マロと EPRDF 政権を中心に」(藤本)は、政治経済的に周辺化された農耕民であるマロの国家との関係の歴史をたどった後、その近辺で開始された再定住化計画やダム開発がマロ社会に及ぼす影響について報告している。「第11章 新たなコモンズと資源管理システムの生成 エチオピア西南部農牧民ツアマコの事例から」(宮脇)は、1990年代の農牧民ツアマコのテリトリーに作られた綿花プランテーションとツアマコとの交渉と、2010年代に始まったプランテーション周辺でのツアマコによる灌漑農耕システムの形成について報告している。「第12章 牧畜社会の経験 EPRDF 政権下におけるダサネッチの窮状」(佐川)では、オモ川の季節的氾濫に依存してきた農牧民ダサネッチが、オモ川に建設されたダムと、下流に作られたプランテーションによって伝統的な生業を奪われ、新たな生活へ適応を強いられている現状と、そのような状況にダサネッチたちがどのように対応しようとしているのかを報告している。

この報告書に納められた諸論考は、日本ではまったく触れられることのなかったエチオピア国家の政治経済システムの分析と、それを背景とした各地域の多様な状況の分析を行っているという点で、エチオピア研究だけでなく、アフリカ研究全体にとっても重要な貢献をなしている。また発展途上国における開発主義と民族問題、そして強権的国家による支配という世界でも多くの地域で生じている問題を具体的に分析の対象としているという点において、文化人類学だけでなく、地域研究一般にも貢献するだろう。

なお本報告書の執筆者たちは、現在この報告書をもとに、書籍の刊行を目指してさらに内容をブラッシュアップしている。また日本語書籍だけでなく、英文書籍も刊行ができれば、世界的な貢献にもなるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 藤本武	4. 巻 89 (9)
2. 論文標題 主食となる発酵食 - 高い人口密度を支えるエチオピアの巨大イモをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 807-810
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐川徹	4. 巻 95
2. 論文標題 エチオピアにおける食料安全保障政策と激変する農牧民の生活 大規模開発事業との関係に注目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 13-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐川徹	4. 巻 45
2. 論文標題 漁労を始めた牧畜民 ダサネッチにおける生業をめぐる文化的評価とその変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 41-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sagawa, Toru and Hazama, Itsuhiro	4. 巻 40 (2)
2. 論文標題 Naturalography of co-existence among East African pastoral societies: An Introductory overview of Japanese scholarship	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 African Study Monographs	6. 最初と最後の頁 45-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 児玉由佳	4. 巻 58
2. 論文標題 エチオピア：混乱からの前進か、さらなる混乱か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 29-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/africareport.58.0_29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 眞城百華	4. 巻 59
2. 論文標題 変動するエチオピア政治	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 116-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本 武	4. 巻 90
2. 論文標題 エチオピアにおける有毒イモ利用の諸相 - テンナンショウ類を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 とやま民俗	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本 武	4. 巻 53
2. 論文標題 テフとインジェラ - エチオピアにおける食と農の展開に関する事例分析 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農業史研究	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Momoka Maki	4. 巻 36
2. 論文標題 Women and the Armed Struggle in Tigray, Ethiopia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 85-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西 真如	4. 巻 48
2. 論文標題 エチオピアの政治危機とそのゆくえ 与党指導部は世代交代を決断できるか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 66-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuka Kodama	4. 巻 36
2. 論文標題 Effects of the 1991 Land Redistribution on Women's Right to Land in the Amhara Region, Ethiopia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 9-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Sagawa	4. 巻 23
2. 論文標題 Waiting on a friend: Hospitality and gift to the 'enemy' in the Daasanach	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nilo-Ethiopian Studies	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toru Sagawa	4. 巻 6
2. 論文標題 Availability and violence in the Ethiopia-Kenya-South Sudan borderland	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際武器移転史	6. 最初と最後の頁 39-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yukio Miyawaki	4. 巻 36
2. 論文標題 How Did the Discourses of Globalized Eradication Campaign Reach Grassroots Communities? Female Genital Cutting and Its Eradication Activities among the Yellow Bull in Ethiopia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 47-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 藤本武
2. 発表標題 モロコシ栽培利用の多様性と変容 - エチオピア西南部の山地農耕民マロの事例 -
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujimoto, Takeshi (藤本武)
2. 発表標題 Moral Economy of Sharecropping: The Case of Malo Farmers in Southwestern Ethiopia
3. 学会等名 IUAES 2019 Inter-Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田川玄
2. 発表標題 無形文化遺産の担い手とは誰か? : エチオピアのガダ体系を事例として
3. 学会等名 第28回日本ナイル・エチオピア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiko Tonegawa
2. 発表標題 Policy and Practice of "Inclusive Education" in Ethiopia: The Case of Primary Education for Children with Disabilities in Addis Ababa
3. 学会等名 International Education Development Forum 2019 (Pre-symposia: Panel Discussion on Inclusive Education) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiko Tonegawa
2. 発表標題 Children's Education in Ethiopia: With Special Reference to Children with Disabilities in Addis Ababa
3. 学会等名 International Conference for the 80th Anniversary of Hanyang University "Stimulating Asia's Public Diplomacy towards Africa Based on the Analysis of Market Environment in Africa" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本 武
2. 発表標題 エチオピアの食と農 - ユニークな作物とその発酵食を中心に -
3. 学会等名 第27回日本ナイル・エチオピア学会学術大会 (公開シンポジウム『食と農が支えたナイル・エチオピア地域の歴史と文化』) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本 武
2. 発表標題 エチオピア西南部の山地農耕民マロにおけるヤムイモの栽培利用 - ギニアヤムを中心に -
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Fujimoto
2. 発表標題 Diversity, Cultivation and Utilization of Yams (<i>Dioscorea</i> spp.) among the Malo Mountain Farmers in Southwestern Ethiopia
3. 学会等名 16th Congress of International Society of Ethnobiology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Fujimoto
2. 発表標題 Why is Teff Uniquely Important in Ethiopia? A Consideration from a Southwestern Society
3. 学会等名 International Workshop on "Millets and Maize: Dynamics around Ethiopia's Competing Grains" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Fujimoto
2. 発表標題 People-Made Landscapes of Cropping, Managed Fertility, and Cosmology: The Case of Malo Farmers in Southwest Ethiopia
3. 学会等名 20th International Conference of Ethiopian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 眞城百華
2. 発表標題 国家とNGO-エチオピア・ティグライの事例-
3. 学会等名 第55回日本アフリカ学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Momoka Maki
2. 発表標題 Women Liberation in Tigray, Ethiopia: Experiences under a situation of Civil War
3. 学会等名 20th International Conference of Ethiopian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西 真如
2. 発表標題 国家への期待と想像力、秩序のための交渉と実践
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児玉由佳
2. 発表標題 エチオピア女性の湾岸諸国への労働移動 その動機とプロセス
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐川 徹
2. 発表標題 自然のドメスティケーション 牧畜の起源と現在：狩猟から家畜化へ
3. 学会等名 平成30年度めぐるシティカレッジ講座「人類がたどった地球環境史」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 利根川佳子
2. 発表標題 市民社会に関する法律の影響とNGOの対応と認識：エチオピアを事例にして
3. 学会等名 第55回日本アフリカ学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 利根川佳子
2. 発表標題 エチオピアにおけるNGOセクター：市民社会活動に関する法律の影響
3. 学会等名 2018年 アジア経済研究所 夏期公開講座（エチオピアの社会を知る：急激な経済成長のなかで変わる社会）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 利根川佳子
2. 発表標題 “ Inclusive Education ” in Ethiopia: Analysis from the perspectives of teachers and parents of children with disabilities
3. 学会等名 The 4th Waseda ORIS International Symposium for Junior Researchers “ Global Governance for Inclusive and Peaceful Societies: The Way of Achieving Sustainable Development Goals (SDGs) ”（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田川 玄
2. 発表標題 文化翻訳としての無形文化遺産：エチオピアのガダ体系を事例として
3. 学会等名 第27回日本ナイル・エチオピア学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮脇幸生
2. 発表標題 CBO (Community-Based Organization) と女性のエンパワメント - エチオピア西南部クシ系農牧民ホルの「女性組合」の事例から
3. 学会等名 第55回日本アフリカ学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮脇幸生
2. 発表標題 女性のエンパワメントと原初的NGO / 地域社会組織 (CBO) の展開 - エチオピア西南部クシ系農牧民ホルの「女性組合」の事例から
3. 学会等名 公開研究会「地域における実践と研究・教育の往還」(日本アフリカ学会東北支部会)(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本栄莉(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 アフリカで学ぶ文化人類学 民族誌がひらく世界	

1. 著者名 児玉由佳 (編著)、石井洋子、網中昭世、佐藤千鶴子、須永修枝、園部祐子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 308
3. 書名 アフリカ女性の国際移動	

1. 著者名 北村光二・内藤直樹・太田至・曾我亨・杉山祐子・湖中真哉・波佐間逸博・河合香吏・佐川徹・川口博子・目黒紀夫・中村香子・孫暁剛・泉直亮・楠和樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 400
3. 書名 遊牧の思想 人類学がみる激動のアフリカ(「男らしさ」を相対化する グサネッチの戦場体験)	

1. 著者名 山田満, 中野洋一, 吉川健治, 金森俊樹, 堀江正伸, 丸山隼人, 本多倫彬, 田中新悟, 桑名恵, 福井美穂, 利根川佳子, 滝澤三郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 368
3. 書名 新しい国際協力論[改訂版](第13章「国際教育協力」)	

1. 著者名 Mitsuru Yamada, Miki Honda, Yoshiko Tonegawa	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Union Press	5. 総ページ数 252
3. 書名 Complex Emergencies and Humanitarian Response (Chapter 11 NGO sector in Ethiopia: The impact of the civil society organization law)	

1. 著者名 森五郎・澤村信英, 朝隈芽生, 清水彩花・カラーウィンジ山本, 福地健太郎, 利根川佳子, 大場麻代, 川口純, 日下部達哉, 清水貴夫, 小川未空, 日下部光, 乾美紀, 坂上勝基, ファナンテナナ リアナスア アンドリアリニアイナ・澤村信英, 吉田和浩, 黒田一雄, 内海成治, 小野由美子・志賀圭	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 400
3. 書名 発展途上国の困難な状況にある子どもの教育 - 難民・障害・貧困をめぐるフィールド研究 (第6章 エチオピア・アディスアベバ市における「インクルーシブ教育」政策と実態 - 関係当事者の認識から探るインクルーシブ教育の検討)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西 真如 (Nishi Makoto) (10444473)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・准教授 (15401)	
研究分担者	児玉 由佳 (Kodama Yuka) (10450496)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター ジェンダー・社会開発研究グループ・研究グループ長 (82512)	
研究分担者	利根川 佳子 (Tonegawa Yoshiko) (10608186)	早稲田大学・社会科学総合学院・専任講師 (32689)	
研究分担者	藤本 武 (Fujimoto Takeshi) (20351190)	富山大学・学術研究部人文科学系・教授 (13201)	
研究分担者	眞城 百華 (Maki Momoka) (30459309)	上智大学・総合グローバル学部・准教授 (32621)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田川 玄 (Tagawa Gen) (70364106)	広島市立大学・国際学部・教授 (25403)	
研究分担者	佐川 徹 (Sagawa Toru) (70613579)	慶應義塾大学・文学部（三田）・准教授 (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関